

# 平成 29 年 度

(自 平成 29 年 4 月 1 日～至 平成 30 年 3 月 31 日)

## 事業報告書

公益財団法人 京都国際学生の家

## 事業報告書

当法人は、「京都に学ぶ各国学生の健全で有意義な共同生活を助成するとともに、その知性、徳性及び靈性の向上をはかり、併せて国際親善と相互理解の増進とに寄与し、もって不特定多数の公益に寄与することを目的とする。」（定款第3条）ことを目的としている。

世界各国から国際学術都市京都に來り学ぶ外国人学生と日本人学生に、学寮という生活の場を提供し、月間・年間を通じた行事や毎日の地道な活動を通じて、ハウスの創始者であるスイス人牧師、故ウエルナー・コーラ（Werner Kohler）博士の提唱した「共同の生」を体験させることによって、この国際理解と親善の増進を計る。この「共同の生」とは、我々の現存在の表面的な調和的共存を意味しているのではなく、異なる国家あるいは民族の間に厳然として存在する人種、宗教、慣習、文化さらにはイデオロギーといったものの相違を、寮生相互に対決（confront）させ、これらの相違を互いに認め合った上で、一個の人格としての「出会い（Begegnung）」を体験させることである。この「出会い」を通じて、相互の相違を認識し、相互に承認し合うという、きわめて厳しい努力と体験を通じて得られる寛容（Tolerance）が、人類普遍の願望である人類共存の道を達成する有力な手段であると信じ、この「出会いの家（別称）」という屋根の下で営まれる「共同の生」の実現と維持を続けている。開館以来51年間に、寮生用34室を利用した寮生は世界の81ヶ国から989名、併設されている研究員用11室を利用した学者、研究者は95ヶ国から3020名の多きにのぼる。これらの寮生、研究者達は、京都における学際的研さんの成果と共に、この「家」で体験した人間同士の愛と連帯意識をもって世界中で活躍している。

半世紀が過ぎ、建物は老朽化し、耐震補強や電気・水道などを改修する「本館の耐震改修」と「研究者棟の建て替え」に直面し、本格的な寄付活動を開始するべく、募金委員会を2017年6月に立ち上げた。「国際平和」の実現を祈念して、今後も世界の若者に本学寮を提供するため、京都商工会議所の賛同を得て、京都の企業を中心に募金活動を開始した。企業等を感謝祭やコモンミールに招き、学生と交流してもらう機会を設けた。また京都仏教会の賛同を得て、清水寺、金閣寺、銀閣寺に募金箱を設置して、本学寮の設立時に行われたように、広く一般人への支援を呼びかけようとしている。そして、京都新聞やNHKの取材を受けて、メディアを通じて寄付活動の周知を行うことにしている。さらに、クラウドファンディングによる寄付活動、ホームページの充実を行って、多様な形での寄付活動を進めようとしている。

## I. 事業の概況

### 1) 学生及び研究者の国際交流の場としての宿泊施設の設置及び運営

#### (1) 京都「国際学生の家」

	学生用	研究者用	備 考
収容定員	34 室	11 室	研究者用にはツインルーム 3 室あり

#### (2) 利用状況

○学生の部（平成 29 年 4 月より平成 30 年 3 月）

国 別	人員	研 究 機 関 別	人員
日本	16	京都大学	27
ドイツ	4	同志社大学	3
中国	3	NCC 宗教研究所	3
韓国	3	京都女子大学	2
台湾	2	立命館大学	1
インド	2	京都外国語大学	1
アメリカ	2	京都工芸繊維大学	1
オランダ	1	京都産業大学	1
カナダ	1		
イギリス	1		
エジプト	1		
ニュージーランド	1		
マダガスカル	1		
フランス	1		
合 計	39	合 計	39

○研究者・学者の部

アメリカ	1	タイ	5
イギリス	1	台湾	1
イスラエル	1	中国	4
イタリア	1	ドイツ	2
インド	2	ブラジル	1
インドネシア	1	フランス	1
オランダ	1	ポルトガル	1
カナダ	1	ロシア	2
韓国	1		
スペイン	1	合 計	28

(3) 学生及び研究者の生活・勉学の援助及びカウンセリング

原則として、一 가족が、ハウスペアレント(学寮管理者)として、学寮内に居住して、寮生の生活のアドバイス、勉学援助やカウンセリングなどに当たっている。そのハウスペアレントを補助する機関として、学生の入寮時の面接、カウンセリングなどを行う学寮運営委員会(ハウスコミッティー)が組織され、活動している。

(4) 行事・活動：

下記のような月間・年間を通じた行事や日常活動を通じて、異なる国家あるいは民族の間に厳然として存在する人種、宗教、慣習、文化さらにはイデオロギーといったものの相違を、入寮学生・研究者相互に対決させ、これらの相違を互いに認め合った上で、一個の人格として出会う「共同の生」を体験させている。この様な相互の相違を認識し、相互に承認し合うという、きわめて厳しい努力と体験を通じて得られる寛容が、人類普遍の願望である人類共存の道を達成する有力な手段であり、このことが同じ屋根の下で営まれる「共同の生」を通じて実現できると期待している。

各寮生には、ハウスの維持のために必要な仕事(当番：例として、ハウスキーパー当番、スポーツ当番、コモンミール当番など)を分担させている。また、一緒に食事や音楽、スポーツ等を楽しめるような共有設備(共有台所、ピアノ、広い応接室、卓球台、ビリヤード、バレーボールコート等)を備え、自然に「共同の生」に参加できるような仕組みとしている。

① 月間定例行事

○ほぼ月に2回 19:30~21:00 チーム・ミーティング

半期ごとに学生から選出されたチェアパーソン、バイスチェアパーソン、書記、会計とハウスペアレントがチームという自治組織を作り、全員参加のハウス・ミーティングの前に、ハウスで起こる諸問題やセミナー等を含めた種々の行事の打ち合わせを行っている。

○ほぼ月に2回 18:30~20:30 コモン・ミール (夕食会)

「コモンミール」は、当番制で作る寮生の自国料理を皆で楽しむ夕食会のことで、寮生達が友好を深め、異なった国々の文化を理解する第一歩であり、「共同の生」の入り口であると考えている。皆と一緒に「会食をする」ということは、多様な地域の文化・慣習・宗教などを一番簡単に、しかも深く感じることでできる行為だと私たちは考えて行っている。

○ほぼ月に2回 20:30~22:00 ハウス・ミーティング

コモンミールの後に、ハウスペアレントも含めて、寮生全員参加の一番重要な会議である。寮生のチェアパーソンを議長に、ハウスで起こる諸問題を取り上げ、全員で議論を闘わせ、解決への努力をしながら「共同の生」を体感している。

② 年間定例行事

○新入生歓迎会：平成29年4月8日(土)、10月7日(土)

前期と後期で年に2回、寮の理事やハウスコミッティの委員が参加。理事長や理事の挨拶後、国際寮の生活に早く馴染めるよう、寮生の委員によるハウスのガイダンス、及び新入生の自己紹介等が行なわれた。

○国際食べ物祭り：平成29年7月8日(土)

「食を通じた国際親善活動」と位置づけられている行事で、各国(9~10カ国)留学生のお国自慢の料理を、ダンスパーティ等でご迷惑をお掛けしているHdB周辺の住民の皆さんや、寄附を下さった方々や友人を招待して、食を通じて、寮の雰囲気や世界を実感してもらう定例行事。用意した300食ほどが2時間ほどで完食された。

○感謝祭：平成29年11月11日(土)

学寮に寄附を下さった方々や団体、日頃お世話になっている人達をご招待して、各国のお国自慢の料理の腕を振るい、感謝の気持ちと学寮が多くの人達の

善意で成立していることを理解する定例行事が行われた。

○小旅行：

前期：平成 29 年 6 月 10 日（土）、11 日（日）

淡路市 ゲストハウス花野

淡路島の文化に触れつつ、レクレーションと共同炊事を通して親睦を深めた。

後期：平成 29 年 11 月 17 日（土）、11 月 18 日（日）

大阪都市部観光・てんとう虫パーク

大阪都市部では、日本のポップカルチャーを体験。てんとう虫パークでは、いろいろなスポーツをして学生間の交流を深めた。

○セミナー

前期：平成 29 年 5 月 13 日（土）

料理は化学であることの実験体験

後期：平成 30 年 1 月 21 日（土）

京都市防災センターでの災害体験

○スポーツ大会：平成 29 年 4 月 15 日（土）、平成 29 年 10 月 21 日（土）

年に 2 度、スポーツを通じて、寮生達の交流と親睦を兼ねたスポーツ大会を行った。

○ダンスパーティ（レジデント主催行事）：平成 29 年 6 月 24 日（土）

年に 1 度、友人や知り合いを招待して、交流や親睦をはかると共に、学寮の宣伝を兼ねた行事（ダンスパーティ）を開催した。また、本行事は、「チーム」の活動資金を調達する目的もある。

○クリスマス・パーティ：平成 29 年 12 月 16 日（土）

日本的な意味でのクリスマスの名を借りた寮生達の「忘年会」である。学寮の役員、親しい友人や OB 達を招待して、自慢の料理やケーキを作り、一緒に食事をし、余興など、一年を振り返りながら、親睦を図る楽しい行事であった。

○クリーニング・デイ（大掃除）：平成 29 年 7 月 9 日（日）、12 月 17 日（日）

年に 2 度、寮生全員で、学寮の共有スペースである卓球室、ビリヤード室、応接室、運動場、洗濯室などを清掃する。自分たちの生活空間を自分たちで、

清掃し、整理整頓にすることで、生活空間を快適にする目的で行った。

以上のほか、国際ソロプチミストの招待を受けて、日本の文化や歴史を学習して、国際交流に努めた。

### ③ 図書の刊行頒布

会誌等の刊行：「2017 年度 YEAR BOOK」の刊行。

学寮の公式の出版物である。一年間の学生達の活動報告や、元寮生の経験談、寮としての公式の活動を記録して、関係者に配布して、学寮の活動を理解して頂く出版物である。特に、昨年及び本年の号は、本学寮の耐震及び改修工事、研究所棟新築についての必要性について、理解して頂く内容の編集が行われた。そこで、学生達の一年間の報告などを別冊として、出版された。

## 2) 不動産等の管理と運営

行事・活動：

寮の空きスペースを利用して、駐車場を設置し、後援会会員に貸与を行っている。区画数 19 台あり、空きが出た場合には、駐車場に掲示するとともに、近隣住民の後援会会員に連絡し、募集を行っている。その他、当学寮生・研究者等の利便性ために自動販売機を 1 台設置している。

## II. 庶務の概要

### 1) 役員

理事長	内 海 博 司	京都大学名誉教授
常務理事	飯 田 悠 哉	京都外国語専門学校講師
理事	上 村 多恵子	京南倉庫（株）代表取締役社長
	村 田 翼 夫	筑波大学名誉教授
	嘉 田 良 平	四条畷学園大学教授
	吉 村 一 良	京都大学教授
	RUSTERHOLZ Andreas	関西学院大学文学部教授
	吉 川 晃 史	熊本学園大学准教授、公認会計士
	深 海 八 郎	眺八海倶楽部総支配人
	永 井 千 秋	（公財）神戸国際医療交流財団 医工連携人材育成コーディネーター

監事	浅 田 拓 史	大阪経済大学准教授、公認会計士
	折 田 康 広	弁護士
	秋 津 元 輝	京都大学教授

学寮運営委員長	山 田 祐 仁	学校法人辻料理学館
学寮運営委員	坂 口 貴 司	三菱電機（株）
	鈴 木 あるの	京都大学講師
	タ ナ ゴ ナ ン ジーン	近畿大学講師
	デイヴィス ピーター	テレコグニックス CEO
	戸口田 淳 也	京都大学教授
	松 橋 眞 生	元ハウス・ファーザー
	長谷川 真 人	京都大学教授
	北 島 薫	元ハウス・マザー
	飯 田 悠 哉	ハウス・ファーザー
	Adriana Hidding	ハウス・マザー

2) 評議員	岩 崎 隆 二	和晃技研(株)代表取締役社長
	中 島 理一郎	元同志社大学教授
	吉 田 和 男	京都大学名誉教授
	西 尾 英之助	京都日独協会会長



山 田 祐 仁 学校法人辻料理学館  
 平 野 克 己 日本塗装機械工業会専務理事  
 蔦 田 正 人 蔦田内外国特許事務所代表  
 諏 訪 共 香 日本語教師  
 (平成 30 年 3 月 12 日就任)

3) 顧 問 所 久 雄 社会福祉法人  
 京都国際社会福祉協力会理事長  
 神 田 啓 治 京都大学名誉教授  
 シュペネマン クラウス 同志社大学名誉教授  
 平 松 幸 三 京都大学名誉教授  
 森 棟 公 夫 梶山女学園大学教授  
 柴 田 光 蔵 京都大学名誉教授

4) 職員

氏 名	担 当 事 務	備 考
樋 口 洋 子	法人事務及び経理事務等	
清 水 良 子	受付業務などの庶務事務	
吉 竹 慶 一	学寮の維持管理（学寮外周り）	

5) 後援会員 (詳細についてはイヤブックに記載。)

法人会員 10  
 個人会員 50  
 O B 会員 980

6) 理事会

回・年 月 日	議 題	結 果
第 11 回 平成 29.5.27	1.第 10 回理事会議事録について 2.平成 28 年度事業報告について 3.平成 28 年度決算報告について 4. HdB の将来問題（寄附）の件 5. 理事・監事の改選について 6. 第 8 回評議員会開催について	承認 承認 承認 承認 承認 了承

第 12 回 平成 29.7.31 (書面による決議)	1. 理事長の選任について 2. 特定寄付の募集に関わる目論見書設定について	承認 承認
第 13 回 平成 29.8.30	1. 今後の募金活動について 報告：募金活動の経過について 設計事務所について	承認 承認 了承
第 14 回 平成 30.3.10	1. 第 13 回理事会議事録について 2. 平成 30 年度事業計画について 3. 平成 30 年度予算について 4. HdB の募金活動の件 5. 第 10 回評議員会の開催について	承認 承認 承認 承認 了承

7) 行政官庁の指示に関する事項

該当なし

8) 契約に関する事項

該当なし

9) 寄附金等に関する事項

(1) 寄附金・寄附物品（使途指定なし）

寄附者（敬称略・順不同）：財団の維持及び活動経費として受け入れ、目的に応じて支出した。

高田徳子、岩永勉、坂野泰治、山岸秀夫、福本学、辻正樹、小川侃、木原文太左右衛門、山下進一、近藤哲理、岩沼省吾、岡本徳子、小西淳二、文字健二、澤田正樹、吉村俊之、吉川昭一、山上和則、川野家稔、大鹿康廣、山口忠彦、瀬野悍二、加藤哲雄、木下研一、天野敏彦、福本和久、中上和子、橋本修、上田学、藪田定男、松田敬一、置田和永、村崎直美、田中徳壽、西原英晃、中山嗣津子、三浦一郎、谷口平八朗、藪下義文、TA-YAN Leong、杉山喬一、鎌野幸子、稲葉カヨ、杉本直美、西本太観、新居哲、成田康昭、中山宏太郎、寺本美智子、福田修平、仲谷正博、伊木慶四郎、井上泰日子、中山道子、稲垣千晶、藪田安晴、柳田由紀子、伊藤康宏、中島理一郎、藤原信、山本雅英、村田翼夫、吉川晃史、陸川良子、辻本圭助、フォーレンバイダー、金智華、飯島千咲、小野寺良信、大菅克知、ステフ、呉少志、Agnoek Sprangers、Floriano Steiner、ALESSANDRO ANDLFATO、Anika Arenz、倉田麻里、石田栄子、匿名、古川彰・千佳、ボーイスカウト京都第 42 団、折田泰宏、野島和伸、山本慶一、ボーイス

カウト京都第 42 団、池田俊一、十河智江子、呉少志、津田夏帆、Lee Kyungmin、Akanksha Tyagi、関西オランダ人協会、国際ソロプチミスト京都たちばな、カンタトーレ・ドメニコ

合計 1,584,319 円

(2) 寄附金（研究者棟新築と本館耐震補強・改修工事費に用途指定）

寄附者（敬称略・順不同）  
 木葉丈司、窪田弘、檜橋創、三浦一郎、道面雅量、株式会社イセトー、鈴木松郎、金澤成保、奥山格、森棟公夫、千種直樹、福田健、高田徳子、福本和久、渡辺暁彦、鳥海修平、楊明、岸本雅史、盛可嘉、CHIN LEE、宇野賀津子、嘉田良平、永井千秋、梶茂樹、内海博司、斉藤郁子、十河智江子、細川治、渡辺恵子、大景勝好、香月桂子、土居貞往、樋口順一、土居英樹、井上郁子、住吉トキ子、牟禮浩子、Laszlo Hollosi、清水安代、守家正憲、金広文、小谷夏美、杉本節子、国際ソロプチミスト京都たちばな、外村中・Sybille Girmond、Liu, I-Thing Huai-Ching、深海八郎、山田祐仁、築瀬康

合計 2,537,578 円

(3) 補助金・援助金

補助金の目的	補助者	補助金額	備考
外国人留学生 対策事業	京都市	1,000,000 円	補助目的に応じた事業に支出

10) 基本金に関する事項

本年度末現在の基本金は下記のとおり。(円)

区分	項目	金額
基本金	ライオンズクラブ (27LC) 京都、西、南、洛南、洛陽、鴨川、桂、北桑田、 洛東、堀川、東、華頂、洛中、みやこ、岡崎、 平安、葵、橘、紫明、北、洛北、桃山、山城、 乙訓、宇治、城陽、綴喜	13,400,000